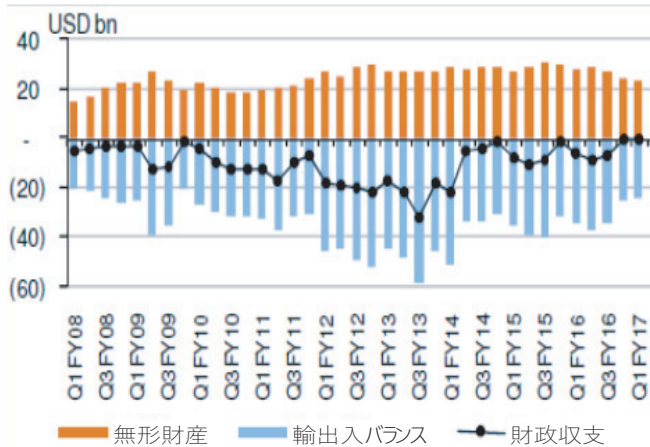
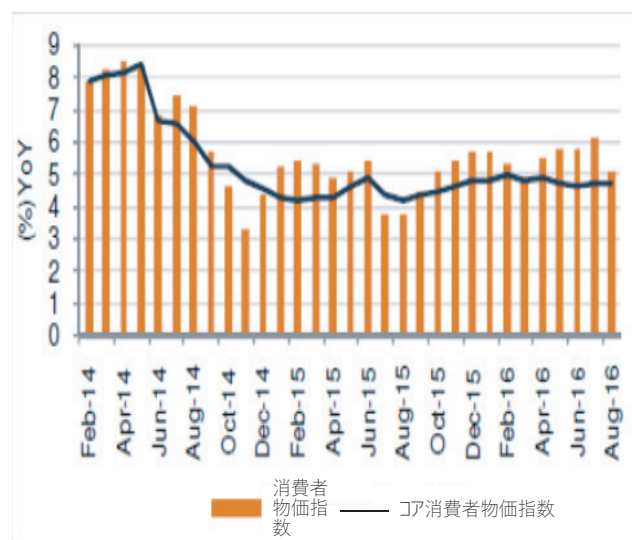


月例 政治、経済アップデート



参照:CSO, UTI MF Research

インドのインフラ - 消費者物価指数とコア消費者物価指数 (% 前年同期比)



参照: Office of Economic Advisor, MOSP, UTI

1. インドの財政赤字が2017会計年度の第一四半期でさらに減少

インドの現在の財政赤字が2017会計年度の第一四半期に3億ドル(GDPの0.1%) (前年同期比:61億ドル(GDPの1.2%)まで減少した。これは外国直接投資による41億ドルと外国機関投資家による21億ドルの増加が原因である。輸入費が下がることよっての輸出入でのプラス収支も要因と言える。

2. 8月にインフラが緩む

8月の消費者物価指数(CPI)が5.05%発表された。(7月:6.07%)一株当たり純資産の100bpsの低下が見られ、これからは食料価格指数の激しい減少、原油価格の安定化、そしてコアインフラが見られると予想される。

3. インド、11月ぶりの外国機関投資家による投資がプラスに

CDSLの統計によると外国機関投資家は16億ドルの株式資本と15億ドルの公社債を9月に買った。最近ではインド資産を経済的補助することがマクロ経済の基礎と合致し、多くなっている。

4. インド政府がアジア史上最大でもある鉄道予算を統合

長年別々の予算が提出されてきたが、インド政府は初めて鉄道予算と一般予算を統合した。(2018会計年度適用)これは鉄道会社からインド政府へ毎年送られる15億ドルを払う必要がなくなるため、直接的に鉄道会社の補助となる。

5. Moody'sはインドでの進展を明るく見る

Moody'sはインド政府によって行われてきた政策は投資家の信頼を勝ち取りさらなる発展につながると同時に不透明な民間投資は国の主権にかかわると述べた。さらにインドの金融経済は最低点をすでに通過したと言った。

6. 工業生産は8ヶ月ぶりの最低を記録、インフラ業界が上昇

7月の鉱工業生産指数(IIP)が8ヶ月ぶりの前年同期比-2.4%となり、6月の+2%とは逆の動きとなった。製造業と電気業は低い成長率を見せた。これらを受け中央銀行はさらに国内産業を補助する必要がある。それと同時にインドのインフラ産業(IIPの38%)は8月に3.2%、7月に3%の成長を見せた。

7. インドが国際競争指数で上昇

世界経済フォーラムの国際競争指数でインドは16国を抜き、39位まで上昇した。史上最速の上昇である。

この報告書は株式やユニットのオファーの性質を持つものではなく、意見や広告の提案や提示でもありません。これは何らかの証券の利率や価格の起こり得る将来の動きに関する何らかの予測や表示の性質を持つものではありません。上記の報告書の内容は、特定の目的、経済状態、そしてこの報告書を受け取る特定の人の特定のニーズを顧みず、情報提供のみを目的としています。何らかの証券や有価証券への投資と本文書に言及されている投資戦略の妥当性に関しては、アドバイスを求めてください。